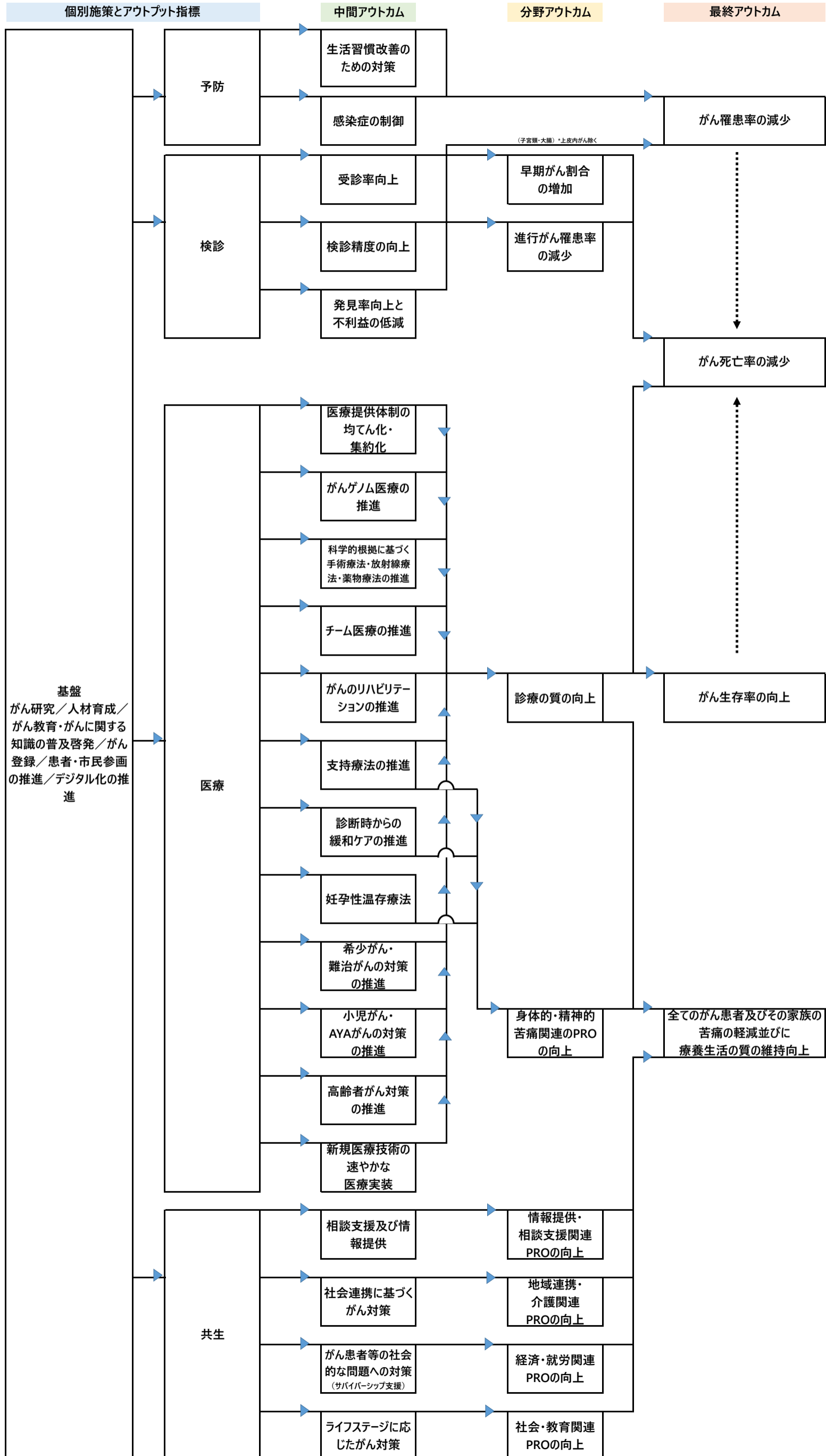


「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：基本ロジックモデル

第95回がん対策推進協議会 参考資料5
令和8年6月18日

厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課 (2026年3月)



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がんの1次予防

生活習慣について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|--|----|--------|
| - | 【国及び地方公共団体】生活習慣について、「次期国民健康づくり運動プラン」に沿った取組を引き続き推進 | 指標設定無し（厚生労働審議会 地域保健健康増進栄養部会 次期プラン推進専門委員会（仮称）での取組評価を注視） | - | - |
| 111101 | 【拠点病院等】地域へのがんの予防に関する普及啓発を実施するとともに、必要に応じてがん相談支援センターが窓口となり、病院全体でがんの予防に関する情報を提供できる体制を整備 | 拠点病院等*で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数（総数） | - | 現況報告書 |

*. 地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院、特定領域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院（各類型の特例型を含む）。以後、同。

参考：第51回厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会資料1より

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|--|------|----------------|
| 111201 | 栄養・食生活①適正体重を維持している者の増加（肥満、若年女性のやせ、低栄養傾向の高齢者の減少） | BMI18.5以上25未満（65歳以上はBMI20を超え25未満）の者の割合 | 1018 | 国民健康・栄養調査 |
| 111202 | 栄養・食生活②食塩摂取量の減少 | 食塩摂取量の平均値 | 1019 | 国民健康・栄養調査 |
| 111203 | 栄養・食生活③野菜摂取量の増加 | 野菜摂取量の平均値 | 1020 | 国民健康・栄養調査 |
| 111204 | 栄養・食生活④果物摂取量の改善 | 果物摂取量の平均値 | 1020 | 国民健康・栄養調査 |
| 111205 | 身体活動・運動①日常生活における歩数の増加 | 1日の歩数の平均値 | - | 国民健康・栄養調査 |
| 111206 | 身体活動・運動②運動習慣者の増加 | 運動習慣者の割合 | 1017 | 国民健康・栄養調査 |
| 111207 | 飲酒①生活習慣病（NCDs）のリスクを高める量を飲酒している者の減少 | 1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者の割合 | 1016 | 国民健康・栄養調査 |
| 111208 | 飲酒②20歳未満の者の飲酒をなくす | 中学生・高校生の飲酒者の割合 | - | 厚生労働科学研究 |
| 111209 | 喫煙①喫煙率の減少（喫煙をやめたい者がやめる） | 20歳以上の者の喫煙率 | 1011 | 国民健康・栄養調査 |
| 111210 | 喫煙②望まない受動喫煙の機会を有する者の減少 | 望まない受動喫煙（家庭・職場・飲食店）の機会を有する者の割合 | 1015 | 国民健康・栄養調査 |
| 111211 | 喫煙③20歳未満の者の喫煙をなくす | 中学生・高校生の喫煙者の割合 | 1012 | 厚生労働科学研究 |
| 111212 | 喫煙④妊娠中の喫煙をなくす | 妊婦の喫煙率 | 1013 | 子ども家庭庁からのデータ提供 |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-------------------------------|---------------------------------|------|--------|
| 100001 | がん種別罹患率減少（胃・大腸・肺・女性乳房・喫煙関連がん） | がん種別年齢調整罹患率（胃・大腸・肺・女性乳房・喫煙関連がん） | 1004 | 全国がん登録 |

| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--------------|-----------------------|------|--------|
| 000004 | がんの年齢調整罹患率減少 | がんの年齢調整罹患率 | 1003 | 全国がん登録 |
| 000001 | がんの年齢調整死亡率減少 | がんの年齢調整死亡率（75歳未満、全年齢） | 1001 | 人口動態統計 |

感染症対策について（HPV）

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|------------------|----|---------------|
| 112101 | 令和4年4月に再開したHPVワクチンの個別の接種勧奨の実施を踏まえ、HPVワクチンの接種状況と子宮頸がんの年齢調整罹患率の国内外の推移を把握し、必要に応じて子宮頸がん検診の指針を見直す等、科学的根拠に基づく子宮頸がん対策を推進 | HPVワクチン定期予防接種実施率 | - | 地域保健・健康増進事業報告 |
| | 令和5年4月から9価HPVワクチンの定期接種を開始し、定期接種及びキャッチアップ接種の対象者に対する、適切な情報提供に基づく正しい理解の促進に取り組む | | | |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------------|-------------------------|------|--------|
| 100002 | がん種別罹患率減少（肝・ATL・子宮頸部） | がん種別年齢調整罹患率（肝・ATL・子宮頸部） | 1004 | 全国がん登録 |

<凡例>
 ・#：指標番号
 ・3期：第3期中間評価指標で採用されていた指標は当時の番号。新規の場合、「-」。
 ・データソース：用いる調査等。既存のデータベースでは情報が取得できず、既存調査の見直しや厚労科研等での対応を検討しているものについては「検討中」と記載。想定される調査について（ ）内に記載している。

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がんの1次予防

感染症対策について (肝炎)

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|-------------------|----|---------------------|
| 112102 | 肝炎ウイルス検査体制の充実やウイルス陽性者の受診勧奨、普及啓発を引き続き推進 | 肝炎患専門医療機関数 | - | 地方自治体における肝炎対策実施状況調査 |
| 112103 | | 肝炎医療コーディネーターの養成者数 | - | 地方自治体における肝炎対策実施状況調査 |
| 112104 | B型肝炎については、予防接種法に基づく定期接種及びウイルス排除を可能とする治療薬・治療法の開発に向けた研究を引き続き推進 | B型肝炎定期予防接種実施率 | 参3 | 地域保健・健康増進事業報告 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|---------------------|------------------|----|--|
| 112201 | B型・C型肝炎ウイルス検査受検率の増加 | B型・C型肝炎ウイルス検査受検率 | 参2 | 厚生労働科学研究(田中班) |
| 112202 | B型・C型肝炎ウイルス陽性者数の減少 | B型・C型肝炎ウイルス陽性者数 | - | 「地域保健・健康増進事業報告(健康増進編)」及び「特定感染症検査等事業実績報告」 |

感染症対策について (HTLV-1)

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------------------------|--|----|---|
| 112105 | 感染予防対策を含めたHTLV-1総合対策等を引き続き推進 | (HTLV-1に関する)患者及びその家族等の目線に立ったわかりやすい情報提供の推進 HTLV-1キャリアやATL・HAM患者に対する相談体制の構築 | - | HTLV-1関連のホームページの閲覧数(厚労省や厚生労働科学研究班作成のホームページのPV数) |
| 112106 | | HTLV-1の保健所の検査体制の整備 | - | 結核感染症課調査 |
| 112107 | | 妊婦に対するHTLV-1スクリーニング検査の継続(実施率100%の維持) | - | 結核感染症課調査 |
| 112108 | | 妊婦健康診査におけるHTLV-1抗体検査の公費負担実施率 | - | 母子保健課調査 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--------------|-------------------|----|----------|
| 112203 | HTLV-1感染率の減少 | ヒトT細胞白血病ウイルス1型感染率 | 参4 | 厚生労働科学研究 |

その他

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|---|---|------------------------------|----|--------|
| - | 引き続き、健康で無症状な集団に対する、ピロリ菌の除菌の胃がん発症予防における有効性等について、国内外の知見を速やかに収集し、科学的根拠に基づき、除菌の必要性の有無及びその対象者について検討するとともに、運用上の課題について整理する | 検討の段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること) | - | - |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がんの2次予防（がん検診）

受診率対策について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|-------------------------------------|----|----------------------------------|
| - | 受診率向上に向けて、がん検診受診率をより正確かつ精緻に、また、個人単位で把握することができるよう検討 | 施策を検討する段階のため、指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |
| 121101 | より科学的かつ効率的な受診勧奨策を、関係学会や企業等の協力を得て、都道府県及び市町村と連携して推進、受診者の立場に立ったがん検診を受診する上での利便性の向上に努める | 受診勧奨実施市町村数※ | - | 市区町村におけるがん検診の実施状況調査 |
| 121102 | 【市町村及び検診実施機関】受診者が、がん検診の意義及び必要性を適切に理解できるよう努める 指針に基づくがん検診の意義・必要性について、国民が正しく理解できるよう普及啓発 | 普及啓発キャンペーンの実施状況（資料の実質配布枚数、イベント参加者数） | - | がん検診受診率60%達成に向けた集中キャンペーン月間実施状況調査 |
| - | 感染症発生・まん延時等にごん検診の提供体制を一時的に縮小した場合でも、状況に応じて速やかに提供体制及び受診行動を回復させることができるよう、平時における準備等の対応について検討 | 施策を検討する段階のため、指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |
| 121103 | 職域におけるがん検診について、実施状況の継続的な把握及び適切な実施に向けた課題の整理を行い、必要に応じて、法的な位置付けも含めた対応を検討 | 指針に基づく検診の実施率 | - | - |

※特別区を含む。以下、同じ。

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|----------|-----------|------|----------|
| 121201 | 検診受診率の向上 | 検診受診率 | 1031 | 国民生活基礎調査 |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------------|---------------|----|--------|
| 100003 | 検診がん種の早期がん割合の増加 | 検診がん種別早期がん割合 | - | 全国がん登録 |
| 100004 | 検診がん種の進行がん罹患率の減少 | 検診がん種別進行がん罹患率 | - | 全国がん登録 |

| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|---------------------|------------------------|------|--------|
| 000002 | 検診がん種の死亡率減少 | がん種別年齢調整死亡率（75歳未満、全年齢） | 1002 | 人口動態統計 |
| 000005 | がん罹患率（子宮頸・大腸）*；減少 ※ | がん種別年齢調整罹患率 | 1004 | 全国がん登録 |

*；上皮内がん除く。
※がん検診により子宮頸部・大腸の前がん病変を早期発見して治療介入すれば、子宮頸がん・大腸がんの罹患数が減少する。

がん検診の精度管理等について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|--|----|-------------------|
| 122101 | レセプトやがん登録情報を活用したがん検診の精度管理について、技術的支援等を行う | がん検診の精度管理について技術的支援を行った市町村への支援数（特別区を含む） | - | 厚生労働科学研究 |
| 122102 | 精密検査受診率の低い市町村の実態把握を行う仕組みについて検討するとともに、都道府県による指導・助言等の取組を推進 【市町村】都道府県による指導・助言等を踏まえ、引き続き、指針に基づいたがん検診の実施及び精度管理の向上に取り組む | 精密検査受診率の低い市町村の実態把握を行い、実際にそれらの市町村に指導・助言等の取り組みを実施した都道府県数 | - | 都道府県用チェックリスト実施率調査 |
| 122103 | 職域におけるがん検診の実態把握に係る方法を検討した上で、職域におけるがん検診の精度管理を推進するための取組について、保険者に対する技術的支援や、産業保健総合支援センターを通じた事業場の産業保健スタッフに対する周知等を含め検討 | 全被用者保険者における要精密検査対象者への受診勧奨の実施割合 | - | 保険者データヘルス全数調査 |
| 122104 | 【国及び都道府県】職域を含めた、がん検診の実施者による分かりやすい情報提供を推進 | 正しいがん検診の周知のため、住民に対し、がん検診の正しい情報提供を実施した市町村数 | - | 市区町村用チェックリスト実施率調査 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------|-----------|------|---------------|
| 122201 | 精密検査受診率の向上 | 精密検査受診率 | 1032 | 地域保健・健康増進事業報告 |
| 122202 | がん発見率の向上 | がん発見率 | - | 地域保健・健康増進事業報告 |
| 122203 | 不利益の低減 | 偽陽性割合 | - | 地域保健・健康増進事業報告 |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がんの2次予防（がん検診）

科学的根拠に基づくがん検診の実施について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|---------------------|------|---------------------|
| - | 諸外国における取組との経年的な比較調査を実施する仕組みについて検討 | 指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |
| 123101 | 指針に基づくがん検診の科学的根拠に基づいた効果検証を進めるとともに、対策型検診の項目の導入に係るプロセスの明確化等について検討 | 指針の遵守市町村数 | 1033 | 市区町村におけるがん検診の実施状況調査 |
| 123102 | 指針に基づかないがん検診に係るプロセスの明確化等について検討 | 指針に基づかないがん検診の中止市町村数 | 参8 | 市区町村におけるがん検診の実施状況調査 |
| - | 指針に基づかないがん検診に係る効果検証の方法について検討するとともに、指針に基づかないがん検診の効果検証を希望する関係学会や企業等と、地方公共団体のマッチングを促進する仕組みについて検討 | 指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |
| - | 組織型検診の構築に向け、科学的根拠に基づくがん検診の実施に向けた取組により精度管理を向上させつつ、課題を整理し、その対応を検討 | 指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がん医療提供体制等＜医療提供体制の均てん化・集約化＞

医療提供全般

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|---|------|--------|
| 211101 | 【国及び都道府県】地域の実情に応じ、均てん化を推進するとともに、持続可能ながん医療の提供に向け、拠点病院等の役割分担を踏まえた集約化を推進（その際、国は、都道府県がん診療連携協議会等に対し、好事例の共有や他の地域や医療機関との比較が可能となるような検討に必要なデータの提供などの技術的支援を行う） | 役割分担に関する議論が行われている都道府県の数 | - | 現況報告書 |
| 211102 | 拠点病院等を中心に、患者に対するがんの告知や、インフォームド・コンセントの取得、セカンドオピニオンの提示などが適切な提供に実施されるような体制整備を引き続き推進 | がん治療前にセカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合 | 2025 | 患者体験調査 |
| 211103 | 【国及び都道府県】感染症発生・まん延時や災害時等の状況下においても、必要ながん医療を提供できるよう、診療機能の役割分担や、各施設が協力した人材育成や応援体制の構築等、地域の実情に応じた連携体制を整備する取組を平時から推進 | BCPに関する議論が行われている都道府県の数 (参考) BCPを整備している拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 |
| 211105 | 拠点病院等、小児がん拠点病院等、がんゲノム医療中核拠点病院等が相互に連携可能となるよう検討 | 都道府県協議会に小児がん拠点病院等が参加している都道府県の数※ | - | 現況報告書 |

※ゲノム拠点は自動的に連携される。

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-------------------------------|-------------------------------------|----|--------|
| 211201 | 医療機関の機能分担を通じた質の高い安心な医療の効率的な提供 | 担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合 | - | 患者体験調査 |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--------------------|--------------------------------|------|--------|
| 200001 | 全国的ながん診療の質の向上・均てん化 | がんの診断・治療全体の総合評価（平均点または評価が高い割合） | 2005 | 患者体験調査 |

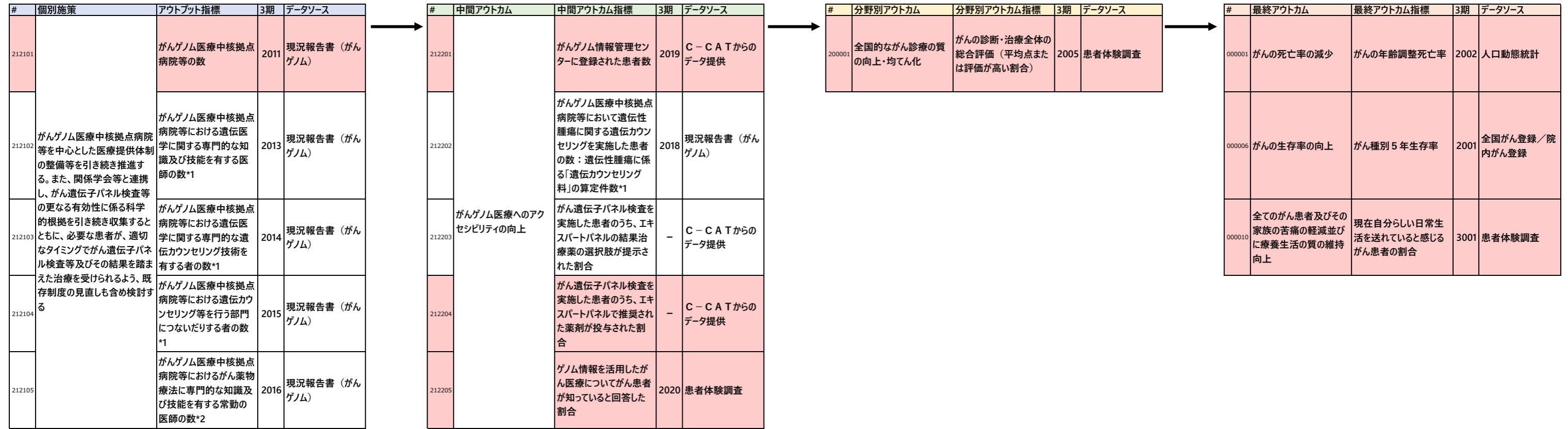
| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------------------------|------------------------------|------|---------------|
| 000001 | がんの死亡率の減少 | がんの年齢調整死亡率 | 2002 | 人口動態統計 |
| 000006 | がんの生存率の向上 | がん種別5年生存率 | 2001 | 全国がん登録／院内がん登録 |
| 000010 | 全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 | 現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合 | 3001 | 患者体験調査 |

病理診断

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------------------------|---|----|--------|
| 211106 | 質の高い病理診断や細胞診断を提供するための体制の整備を引き続き推進 | 病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合（がん診療連携拠点病院：専従の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：専任の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価） | - | 現況報告書 |
| 211107 | | 細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている拠点病院等の割合（がん診療連携拠点病院：専任の細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価） | - | 現況報告書 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------|---------------------------|----|--------|
| 211202 | タイムリーな病理診断 | 初診時から確定診断までの期間が1ヶ月未満の人の割合 | - | 患者体験調査 |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がん医療提供体制等＜がんゲノム医療＞



*1.がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院における人数

*2. がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院における人数

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がん医療提供体制等＜手術療法・放射線療法・薬物療法＞

厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課 (2026年3月)

手術療法について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|------------------------------|------|--------|
| 213101 | 標準的治療の提供に加えて、科学的根拠に基づく、ロボット支援手術を含む鏡視下手術等の高度な手術療法の提供についても、医療機関間の役割分担の明確化及び連携体制の整備等の取組を進める | 拠点病院等における我が国に多いがん*1の鏡視下手術の割合 | 2031 | 現況報告書 |
| 213102 | 厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録している拠点病院等の割合 | - | - | 現況報告書 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------|--|------|------------|
| 213201 | 安全かつ質の高い手術治療の実施 | 我が国に多いがんの術後短期死亡率 | 2032 | 院内がん登録+DPC |
| 213202 | | 診断から手術までの日数(術前化学療法の対象外のがん種・ステージ患者を対象を限定) | - | 院内がん登録+DPC |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|---------------------------------|--------------------------------------|------|--------|
| 200001 | 全国的ながん診療の質の向上・均てん化 | がんの診断・治療全体の総合評価(平均点または評価が高い割合) | 2005 | 患者体験調査 |
| 200004 | (標準的な)診断・医療の進歩 | 一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思う患者の割合 | 2003 | 患者体験調査 |
| 200005 | 治療選択についての情報提供の充実(必要な情報へのアクセス改善) | 治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合 | - | 患者体験調査 |

| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------------------------|------------------------------|------|---------------|
| 000001 | がんの死亡率の減少 | がんの年齢調整死亡率 | 2002 | 人口動態統計 |
| 000006 | がんの生存率の向上 | がん種別5年生存率 | 2001 | 全国がん登録/院内がん登録 |
| 000010 | 全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 | 現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合 | 3001 | 患者体験調査 |

放射線療法について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|---|------|--------|
| 213103 | | IMRTを提供しているがん診療連携拠点病院*2の割合 | 2035 | 現況報告書 |
| 213104 | 【国及び都道府県】標準的治療の提供に加えて、科学的根拠に基づく高度な放射線療法の提供についても、医療機関間の役割分担の明確化及び連携体制の整備等の取組を進める | 専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合 | 2036 | 現況報告書 |
| 213105 | | 常勤の診療放射線技師が2人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合 | - | 現況報告書 |
| 213106 | | 専従の放射線治療に関する専門資格を有する常勤の看護師が放射線治療部門に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合 | - | 現況報告書 |
| - | 関係学会等と連携し、標準的治療及び粒子線治療、核医学治療、画像誘導即時適応技術を用いた治療等の高度な放射線療法の安全な提供体制の在り方について検討 | あり方の検討段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること) | - | - |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|---------------------------------|--|----|------------|
| 213203 | 必要な患者に対する、最適な放射線治療のタイムリーかつ安全な実施 | 放射線治療関連QI(拠点病院等(QI研究参加施設*3)における標準的治療の実施割合) | - | 院内がん登録+DPC |
| 213204 | | 拠点病院等(QI研究参加施設)における手術から放射線治療開始までの期間 | - | 院内がん登録+DPC |

*1. 大腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がん及び肝・胆・膵のがんを想定(以後、同)。
 *2. 地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院(各類型の特例型を含む)(以後、同)。
 *3. 診療の質評価指標(Quality Indicator, QI)研究参加施設(2019年症例解析には591施設が参加、うち、国指定のがん診療連携拠点病院等指定施設は386施設(拠点病院の86%)。)(以後、同。)

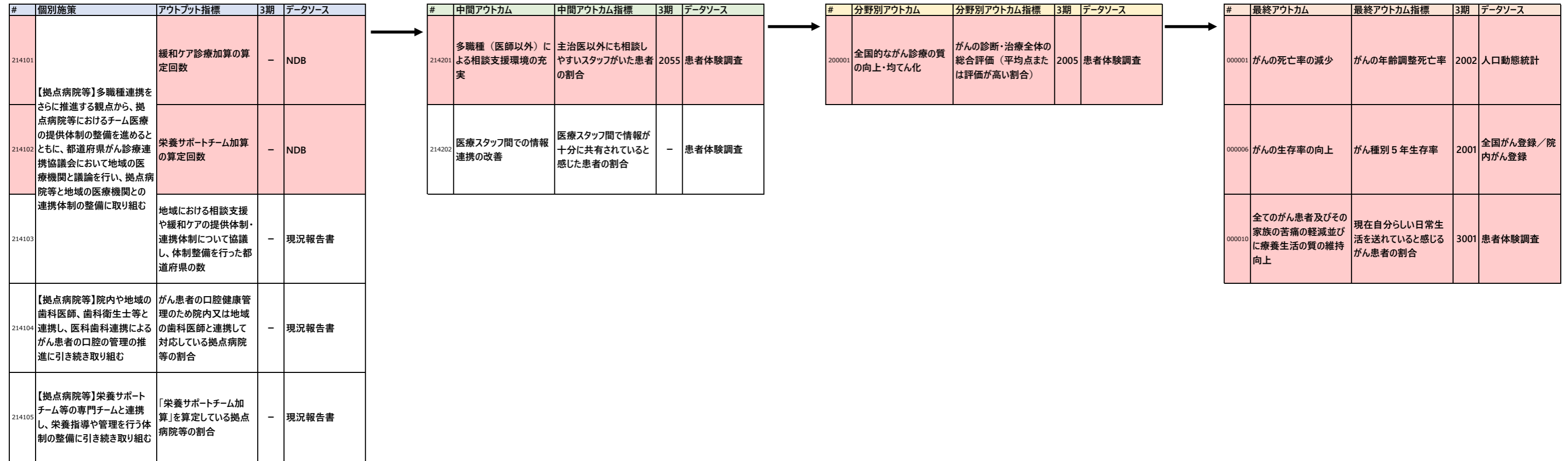
薬物療法について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース | |
|--------|--|--|---|--------|-------|
| 213107 | 【国及び都道府県】患者が、病態や生活背景等、それぞれの状況に応じた適切かつ安全な薬物療法を受けられるよう、標準的治療の提供に加えて、科学的根拠に基づく高度な薬物療法の提供についても、医療機関間の役割分担の明確化及び連携体制の整備等の取組を進める | 専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合 | 2040 | 現況報告書 | |
| 213108 | | 薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合 <small>(がん診療連携拠点病院：専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)</small> | 2041 | 現況報告書 | |
| 213109 | | がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている拠点病院等の割合 <small>(がん診療連携拠点病院：専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)</small> | - | 現況報告書 | |
| 213110 | | 免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携等して対応している拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 | |
| 213111 | | 国立がん研究センターや関係学会と連携し、国民が、薬物療法等に関する正しい情報を得ることができるよう、科学的根拠に基づく治療法に関する情報提供及び普及啓発を推進 | 自施設で対応できるがんについて提供可能な診療内容を病院HP等でわかりやすく広報している拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 |
| - | | 【国及び都道府県】バイオ後継品に係る新たな目標を踏まえ、使用促進のための具体的な方策を検討 | 方策の検討段階のため、指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |

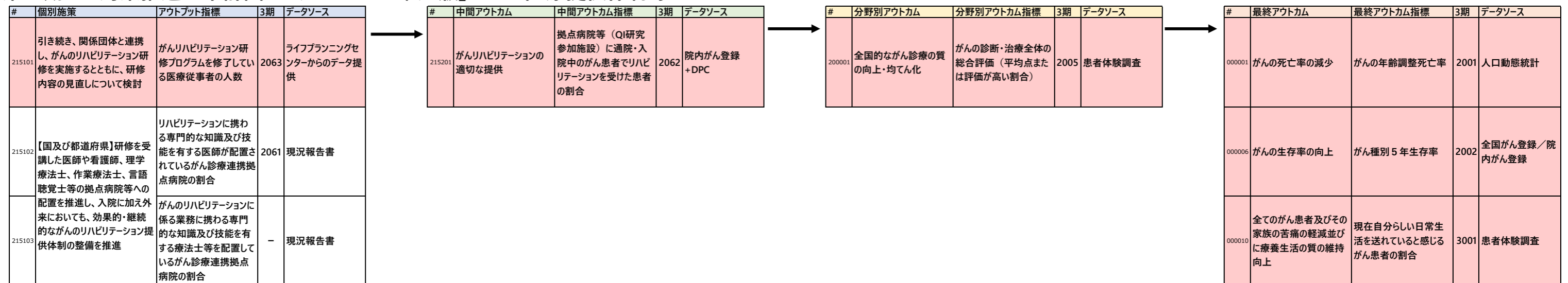
| # | 中間アウトカム | 指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------------------------|---|------|------------|
| 213205 | 最新の知見に基づく適切な化学療法のタイムリー・安全な実施 | 化学療法/薬物療法関連QI（拠点病院等（QI研究参加施設）における標準的治療の実施割合） | 2021 | 院内がん登録+DPC |
| 213206 | | 遅延なく化学療法が行えているか（例：術後化学療法における手術から化学療法まで、あるいは、進行例における診断から化学療法までの期間）*4 | - | 院内がん登録+DPC |
| 213207 | 国民が免疫療法に関する正しい情報を取得 | 科学的根拠を有する免疫療法について国民が必要な情報を取得できている割合 | 2043 | 世論調査 |

*4. 化学療法を遅延なく受けることができているかを評価。測定対象の定義や測定方法について、研究班で検討予定。

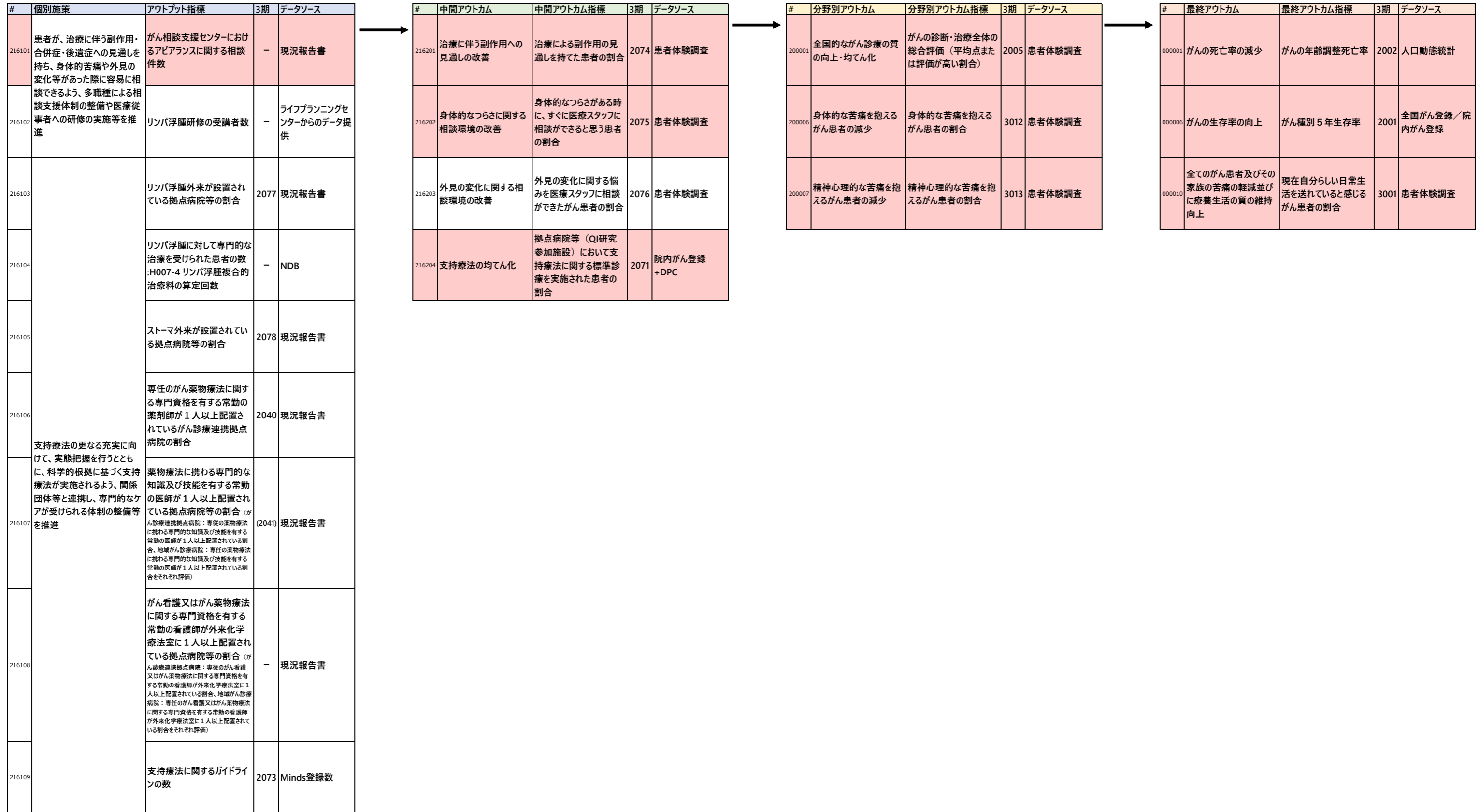
「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がん医療提供体制等＜チーム医療の推進＞



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がん医療提供体制等＜がんのリハビリテーション＞



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がん医療提供体制等＜支持療法の推進＞



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がん医療提供体制等<がんと診断された時からの緩和ケアの推進>

厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課 (2026年3月)

緩和ケアの提供について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|--|----|--------|
| 217101 | 拠点病院等を中心とした医療機関において、がん医療に携わる全ての医療従事者により、がん患者の身体的苦痛や、がん患者やその家族等の精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらの個別の状況に応じた適切な対応が、地域の実情に応じて、診断時から一貫して行われる体制の整備を推進 | 拠点病院等の緩和ケアチーム新規診療症例数 | - | 現況報告書 |
| 217102 | | 特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料イの算定数 | - | NDB |
| 217103 | 拠点病院等を中心に、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護を担う機関と連携し、在宅を含めた地域における緩和ケア提供体制の整備を推進 | 緩和ケア外来の新規診療患者数 | - | 現況報告書 |
| 217104 | | 拠点病院等1施設あたりの地域連携推進のための多施設合同会議の開催数 | - | 現況報告書 |
| 217105 | 関係学会等と連携し、国民に対する、緩和ケアに関する正しい知識の普及啓発を引き続き推進、【拠点病院等】地域の医療従事者も含めた緩和ケアに関する研修を定期的に開催するとともに、地域におけるがん診療や在宅医療に携わる医療機関、関係団体及び地方公共団体と連携し、専門的な疼痛治療を含む緩和ケアに係る普及啓発及び実施体制の整備を進める | 神経ブロックの実施数: L101-神経ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)-腹腔神経叢ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)の件数 | - | NDB |
| 217106 | | 緩和的放射線照射の実施数: M001-3(直線加速器による放射線治療)の2(1以外の場合)の件数 | - | NDB |
| 217107 | 入院だけでなく外来等における緩和ケアの充実に向け、専門的な人材の配置等も含め、検討 | 緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数 | - | 現況報告書 |
| - | 緩和ケアに係る実地調査等を定期的かつ継続的に実施するための方策について、研究を行い、研究結果を踏まえ検討 | 方策の検討段階のため、指標設定無し | - | - |
| - | 専門的な緩和ケアの質の評価等の方策について研究を行う。また、患者体験調査や遺族調査等により、患者やその家族等に、適切な緩和ケアが提供されているかどうかを、引き続き定期的かつ継続的に把握 | 指標設定無し(方策の検討段階、及び引き続き実施する取組のため) | - | - |
| 217108 | 拠点病院等以外の医療機関における緩和ケアの充実に向けて、緩和ケア提供体制の実態や課題等を把握するための調査及び研究を行う | 緩和ケア診療加算の算定回数 | - | NDB |
| - | 終末期医療を受ける場や療養場所の決定に至る意思決定及びこれらの場所における終末期医療の実態等について研究を行い、適切な療養場所の提供や、治療やケアの質の向上について検討 | 検討段階のため指標設定無し(着実に検討を進めること) | - | - |

緩和ケア研修会について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|------------|------|---------------------|
| 217110 | 緩和ケア研修会の更なる推進に努めるとともに、関係団体等と連携し、医療用麻薬の適正使用や、専門的な緩和ケアへのつなぎ方等の観点も踏まえ、緩和ケア研修会の学習内容や、フォローアップ研修等について検討し、必要な見直しを行う | 緩和ケア研修修了者数 | 3017 | がん等における新たな緩和ケア研修等事業 |

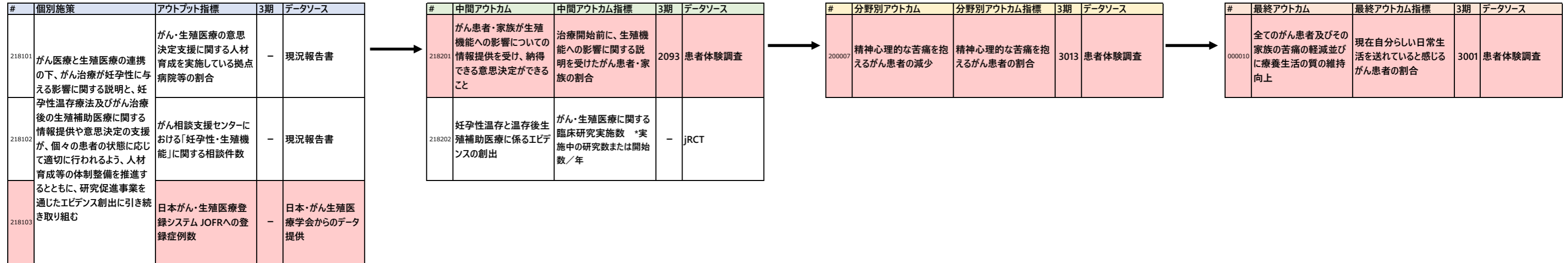
| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--------------------------------|--|------|------------------|
| 217201 | 苦痛に対する適切なケア・治療の普及(緩和ケアチームの質向上) | 医療者はつらい症状にすみやかに対応していたと感じる割合 | - | 患者体験調査・遺族調査 |
| 217202 | | 患者報告アウトカム(PRO)の症状改善率 * 期中に指標を開発予定 | - | 日本緩和医療学会からのデータ提供 |
| 217203 | | 身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合 | 2075 | 患者体験調査 |
| 217204 | | 心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合 | 3011 | 患者体験調査 |
| 217205 | がん患者が、医療者に苦痛の表出ができること | がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合 | 3002 | 患者体験調査 |
| 217206 | | 家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合 | 3003 | 患者体験調査 |
| 217207 | | 医療従事者が耳を傾けてくれたと感じた患者の割合 | 2006 | 患者体験調査 |
| 217208 | 国民の緩和ケアへの理解度向上 | 国民の緩和ケアに関する認識 | 3018 | 世論調査 |
| 217209 | | 国民の医療用麻薬に関する認識 | 3019 | 世論調査 |

* 中間評価に向けてデータを整備予定

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--------------------|-----------------------------------|------|---------------------------|
| 200006 | 患者・家族のQOL向上(苦痛の緩和) | 身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合 | 3012 | 患者体験調査 |
| 200007 | | 精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合 | 3013 | 患者体験調査 |
| 200008 | | 療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合 | 3015 | 遺族調査 |
| 200009 | | 療養生活の最終段階において、精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合 | 3016 | 遺族調査 |
| 200010 | 緩和ケアの質の向上 | 在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度 | 3033 | 遺族調査のサブグループ解析(全死亡のうち在宅死亡) |

| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------------------------|------------------------------|------|--------|
| 000010 | 全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 | 現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合 | 3001 | 患者体験調査 |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がん医療提供体制等＜妊孕性温存療法＞



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：希少がん及び難治性がん対策

希少がん対策

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|--|----|--------------------|
| 220101 | 【国及び都道府県】拠点病院等における診療実績や、医療機関間の連携体制等について、患者やその家族等の目線に立った分かりやすい情報提供を推進 | 希少がんホットラインへの問い合わせ数 | - | 国立がん研究センターからのデータ提供 |
| 220102 | | 「がん情報サービス」または「希少がんセンター」に掲載された希少がんの数および当該ページへのPV数 | - | 国立がん研究センターからのデータ提供 |
| 220103 | 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会における地域の実情を踏まえた議論を推進し、拠点病院等の役割分担に基づく医療機関間の連携体制の整備を推進 | 希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等の数と他施設へ紹介する拠点病院等の数 | - | 現況報告書 |
| 220104 | 病理診断や治療に係る希少がん中央機関と拠点病院等との連携体制の整備を引き続き推進 | 中央病理コンサルテーションの数 | - | 国立がん研究センターからのデータ提供 |
| 220105 | 希少がん領域における薬剤アクセスの改善に向けて、日本の薬事規制等の海外の中小バイオ企業への周知等を通じ、日本での早期開発を促すなど治験の実施（国際共同治験への参加を含む。）を促進する方策を検討するとともに、希少がん中央機関、拠点病院等、関係学会及び企業等と連携した研究開発を推進 | 希少がんに対する臨床試験を実施している拠点病院等の数 | - | 現況報告書 |
| 220106 | 関係学会等と連携した診療ガイドラインの充実を図る | 希少がんに関するガイドラインの数（がん種に対するガイドラインの作成率） | - | Minds登録数 |

| # | 中間アウトカム | 指標 | 3期 | データソース |
|--------|----------------------|--|------|----------------|
| 220201 | 希少がんの患者の診療情報へのアクセス拡充 | 治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた希少がん患者の割合 | - | 患者体験調査 |
| 220202 | 希少がん診療における適切な役割分担の実現 | 希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数 | - | 現況報告書 + 院内がん登録 |
| 220203 | 連携の円滑化（速やかな医療の提供） | 希少がん患者の初診から診断までの時間、診断から治療開始までの時間 | 2082 | 患者体験調査 |

| # | 分野別アウトカム | 指標 | 3期 | データソース |
|--------|----------------------------|--|------|--------|
| 200011 | 希少がん患者の高度かつ専門的な医療へのアクセスの向上 | 希少がんについて、担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合 | 2083 | 患者体験調査 |

| # | 最終アウトカム | 指標 | 3期 | データソース |
|--------|----------------------------------|--------------------------------|----|-----------------|
| 000007 | 希少がんの生存率向上 | 希少がんの5年生存率 | - | 全国がん登録 / 院内がん登録 |
| 000011 | 希少がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 | 現在自分らしい日常生活を送れていると感じる希少がん患者の割合 | - | 患者体験調査 |

難治性がん対策

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|---|----|--------|
| 220107 | 【国及び都道府県】拠点病院等における診療実績や、医療機関間の連携体制等について、患者やその家族等の目線に立った分かりやすい情報提供を推進 | 難治性がん（*1）に関するHP等の整備を行っている拠点病院等の数 | - | 現況報告書 |
| 220108 | 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会における地域の実情を踏まえた議論を推進し、拠点病院等の役割分担に基づく医療機関間の連携体制の整備を推進 | 難治性がん（*1）診療を積極的に受け入れている拠点病院等の数と他施設へ紹介する拠点病院の数 | - | 現況報告書 |
| 220109 | 難治性がん領域における薬剤アクセスの改善に向けて、日本の薬事規制等の海外の中小バイオ企業への周知等を通じ、日本での早期開発を促すなど治験の実施（国際共同治験への参加を含む。）を促進する方策を検討するとともに、希少がん中央機関、拠点病院等、関係学会及び企業等と連携した研究開発を推進 | 難治性がん（*1）に対して臨床試験を行っている拠点病院等の数 | - | 現況報告書 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------------|-------------------------------------|----|----------------|
| 220204 | 難治性がん診療における適切な役割分担の実現 | 難治性がん*1診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数 | - | 現況報告書 + 院内がん登録 |

*1. 膵がんを代表例として想定。難治性がんの定義について、今後検討が必要。

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------------------------|----------------------------------|------|--------|
| 200001 | （難治性がんを含む）全国的ながん診療の質の向上・均てん化 | がんの診断・治療全体の総合評価（平均点または評価が高い割合）*2 | 2005 | 患者体験調査 |

*2. がん種別で評価が困難なため全体の評価で代替。

| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|----------------------------------|------|-----------------|
| 000003 | 難治性がんの年齢調整死亡率の減少 | 難治性がん（代表例：膵がん）の年齢調整死亡率 | - | 人口動態統計 |
| 000008 | 難治性がんの生存率向上 | 難治性がん（代表例：膵がん）の5年生存率 | - | 全国がん登録 / 院内がん登録 |
| 000010 | （難治性がんを含む）がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 | 現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合（*2） | 3001 | 患者体験調査 |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：小児がん・AYA世代のがん対策

小児がん対策

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|--|----|-------------|
| 230101 | 小児がん拠点病院等と、拠点病院等や地域の医療機関等との連携を含め、地域の実情に応じた小児・AYA世代のがん医療提供体制の整備を推進、また、小児がん拠点病院連絡協議会における地域ブロックを超えた連携体制の整備に向けた議論を推進 | 小児がん拠点病院等で小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の人数 | - | 現況報告書（小児がん） |
| 230102 | | 小児がん拠点病院等で小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な知識及び技術を有する医師の人数 | - | 現況報告書（小児がん） |
| 230103 | | 小児がん拠点病院等で小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数 | - | 現況報告書（小児がん） |
| 230104 | | 小児がん拠点病院等における小児がん看護に関する専門的な知識や技能を習得している看護師の人数 | - | 現況報告書（小児がん） |
| 230105 | | 小児がん拠点病院等における医療環境にある子どもや家族への療養支援に関する専門的な知識及び技能を有する者の人数 | - | 現況報告書（小児がん） |
| - | 【小児がん拠点病院等】自施設の診療実績、診療機能や、他の医療機関との連携体制等について、患者やその家族等の目線に立った分かりやすい情報提供に取り組む | 適切な測定指標が無いため指標設定無し（※拠点病院では整備指針で必須要件のため100%となる） | - | - |
| 230106 | 小児がん経験者の晩期合併症について実態把握を行うとともに、小児がん拠点病院等と、拠点病院等、地域の医療機関、かかりつけ医等の連携を含め、地域の実情に応じた小児・AYA世代のがん患者の長期フォローアップの在り方を検討 | 都道府県協議会で長期フォローアップの連携体制について議論している都道府県数 | - | 現況報告書（小児がん） |
| 230107 | | （参考）長期フォローアップ外来を設置している小児がん拠点病院等の施設数 | - | 現況報告書（小児がん） |
| - | 日本の薬事規制等の海外の中小バイオ企業への周知等を通じ、日本での早期開発を促すなど治験の実施（国際共同治験への参加を含む。）を促進する方策を検討するとともに、小児がん中央機関、小児がん拠点病院等、関係学会及び企業等と連携した研究開発を推進 | 施策の検討段階のため、指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-------------------|--|----|--------------|
| 230201 | 小児がん診療の集約化 | 小児がん拠点病院で治療を受けた小児がん患者の割合 | - | 現況報告書+院内がん登録 |
| 230202 | 小児がん相談支援の拡充 | がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う小児がん患者の割合 | - | 小児患者体験調査 |
| 230203 | 長期フォローアップの認知・利用拡充 | 長期フォローアップについて知っていると感じた小児がん患者の割合 | - | 小児患者体験調査 |
| 230204 | 小児がん領域での研究開発の推進 | 小児がん拠点病院において実施されている小児がんに関する治験数 | - | 現況報告書（小児がん） |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------------|--------------------------------------|------|----------|
| 200002 | 小児がん診療の質の向上・均てん化 | 小児がん患者のがんの診断・治療全般の総合評価（平均点又は評価が高い割合） | 2005 | 小児患者体験調査 |

| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--------------|--------------|------|---------------|
| 000009 | 小児がん患者の生存率向上 | 小児がん患者の5年生存率 | 2091 | 全国がん登録/院内がん登録 |

AYA世代のがん対策

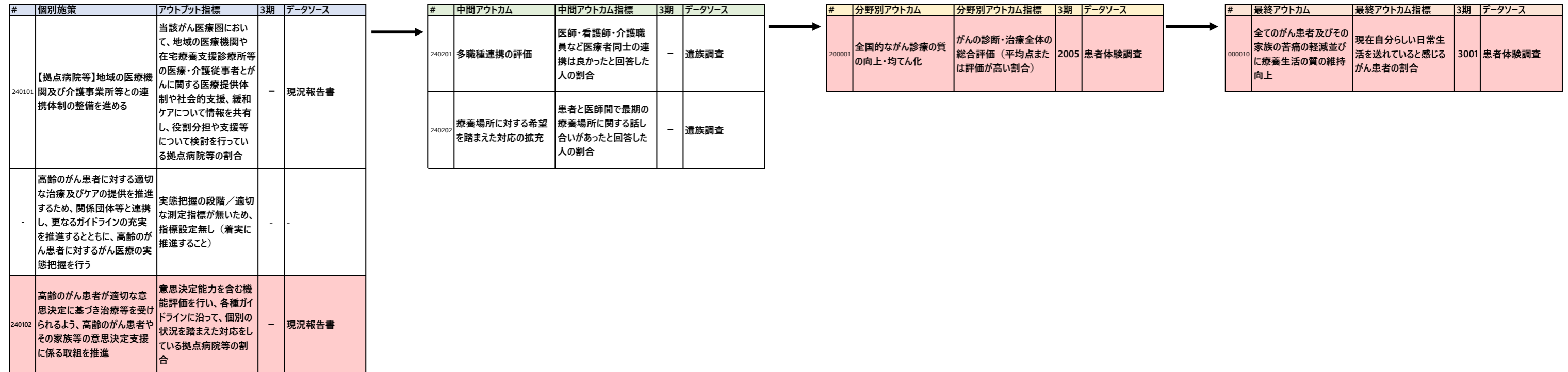
| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|--------------------------------|----|--------|
| 230108 | 小児がん拠点病院等と、拠点病院等や地域の医療機関等との連携を含め、地域の実情に応じた小児・AYA世代のがん医療提供体制の整備を推進、また、小児がん拠点病院連絡協議会における地域ブロックを超えた連携体制の整備に向けた議論を推進 | 多職種からなるAYA支援チームを設置している拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|----------------------|---|------|-----------------|
| 230205 | AYA患者の状況や希望に応じた支援の拡充 | がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じる若年がん患者の割合 | 3002 | 患者体験調査 |
| 230206 | | 外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができた若年患者の割合 | 2076 | 患者体験調査 |
| 230207 | | 治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合 | 2093 | 患者体験調査、小児患者体験調査 |

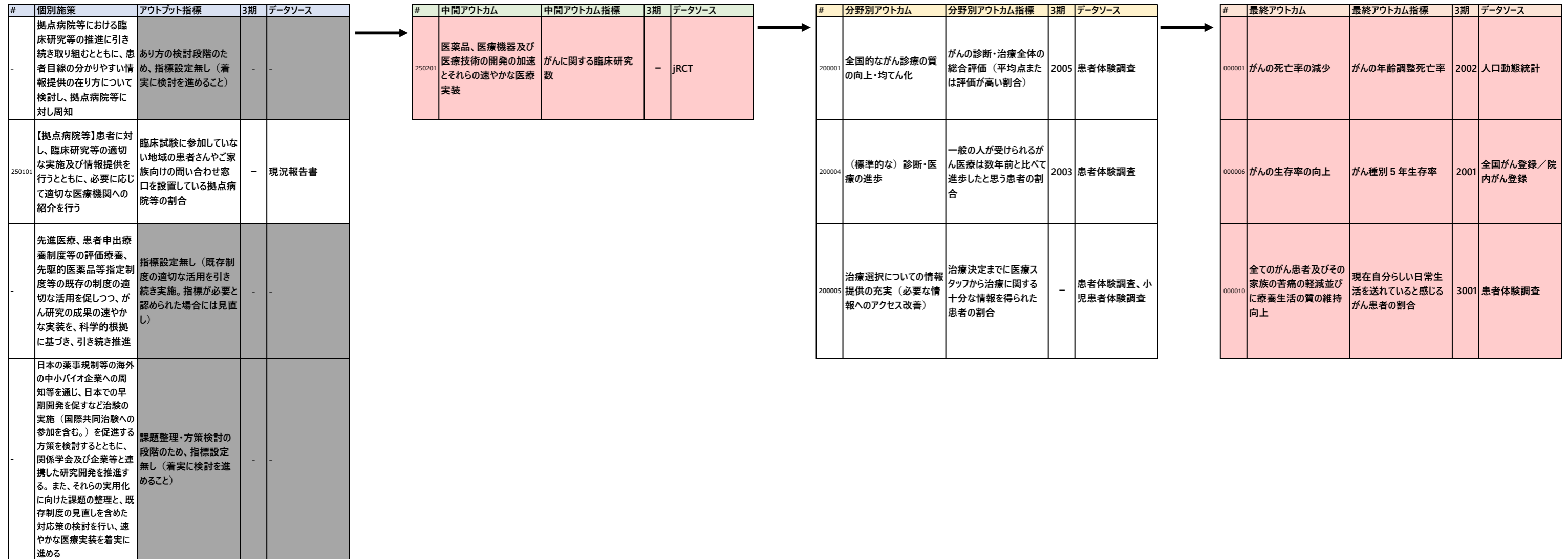
| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|----------------------|------------------------------------|------|--------|
| 200003 | AYA世代のがん診療の質の向上・均てん化 | 若者がん患者の診断・治療全体の総合評価（平均点または評価が高い割合） | 2005 | 患者体験調査 |

| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|----------------------------------|--------------------------------|------|--------|
| 000012 | 若年がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 | 現在自分らしい日常生活を送れていると感じる若年がん患者の割合 | 3001 | 患者体験調査 |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：高齢者のがん対策



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：相談支援及び情報提供

相談支援について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|--|----|--------|
| 311101 | 【拠点病院等】がん相談支援センターの認知度向上及びその役割の理解の促進のため、地域の関係機関等と連携して、自施設に通院していない者も含む患者やその家族等への適切なタイミングでの周知に引き続き取り組む。また、相談支援体制へのアクセシビリティを向上させるため、オンライン等を活用した体制整備を進める | がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数（全国の拠点病院等での総数） | - | 現況報告書 |
| 311102 | 相談支援の質を担保するため、関係団体等と連携し、がん相談支援に係る研修等に取り組む | 相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数 | - | 現況報告書 |
| 311103 | 上記の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数 | 上記の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数 | - | 現況報告書 |
| - | 持続可能な相談支援体制の在り方等について検討 | あり方の検討段階のため指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |
| 311104 | 拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討する。併せて、相談支援の一層の充実を図るため、ICTや患者団体、社会的人材リソースを活用し、必要に応じて地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方策について検討 | 拠点病院等1施設あたりの連携している患者団体の数 | - | 現況報告書 |
| 311105 | 相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるための仕組みについても検討 | 拠点病院等1施設あたりの体験を語り合う場の開催数 | - | 現況報告書 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------------------|---------------------------------------|------|--------------------|
| 311201 | がん相談支援センターの認知度 | がん相談支援センターについて知っているがん患者の割合 | 3023 | 患者体験調査 小児患者体験調査 |
| 311202 | がん相談支援センターの一般の人の認知度 | 治療法や病院についてがん相談支援センターで情報入手しようと思う人の割合 | - | 世論調査 |
| 311203 | がんと診断されてから相談することができること | がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合 | 3021 | 患者体験調査 |
| 311204 | ピアサポーターの認知度 | ピアサポーターについて知っているがん患者の割合 | 3024 | 患者体験調査 |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-------------------------|--|------|--------|
| 300001 | がん患者が、相談を利用し、役だったと思えること | がん相談支援センターを利用したことのある人が役に立ったがん患者の割合 | - | 患者体験調査 |
| 300002 | | ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合 | - | 患者体験調査 |
| 300003 | がん患者の家族が、悩みや負担を相談できること | 家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合 | 3022 | 患者体験調査 |

| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------------------------|------------------------------|------|--------|
| 000010 | 全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 | 現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合 | 3001 | 患者体験調査 |

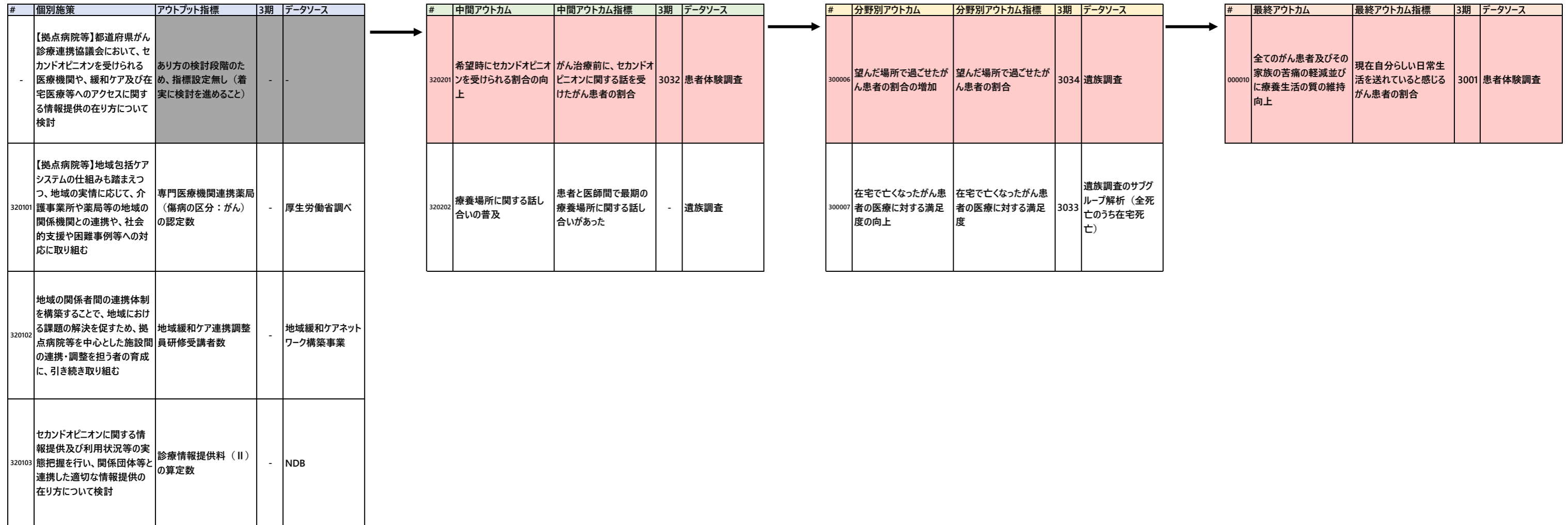
情報提供について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|------------------------------------|------|--------------------|
| - | ニーズや課題等の把握を進め、「情報の均てん化」に向けた適切な情報提供の在り方について検討 | あり方の検討段階のため現時点で指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |
| 312101 | 引き続き、国立がん研究センターや関係団体等と連携して、がんに関する正しい情報の提供及び理解の促進に取り組む | がん情報サービスにアクセスした件数 | - | 国立がん研究センターからのデータ提供 |
| 312102 | | がん情報サービスにおけるコンテンツ更新数 | - | 国立がん研究センターからのデータ提供 |
| 312103 | 障害等により情報取得や意思疎通に配慮が必要な人や、日本語を母国語としていない人への情報提供を適切に行うことで医療へのアクセスを確保するために、現状及び課題等を把握し、情報提供体制の在り方について検討 | がん情報サービスにおける点字資料、音声資料、資料の更新数 | 3026 | 国立がん研究センターからのデータ提供 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|----------------------------|--|------|-----------------------------------|
| 312201 | がん情報サービスの一般の人の認知度 | 治療法や病院についてがん情報サービスで情報入手しようと思う人の割合 | - | 世論調査 |
| 312202 | 探しているがんの情報にたどり着くことができた人の割合 | がん情報サービスにアクセスし、探していた情報にたどり着くことができた人の割合 | 3025 | がん情報サービスによる調査（国立がん研究センターからのデータ提供） |
| 312203 | がんと診断されてから相談することができること | がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合 | 3021 | 患者体験調査 |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------------------------|--|----|--------------------|
| 300004 | がん患者が、治療に関する十分な情報を得ることができること | 治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合 | - | 患者体験調査 小児患者体験調査 |
| 300005 | 国民が、がんに対して正しい認識を持てること | がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合 | - | 世論調査 |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：社会連携に基づく緩和ケア等の患者支援



就労支援について（医療機関側）

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|---------------------------------|------|---------------|
| - | 現在の両立支援制度の効果及び課題を明らかにし、普及啓発、主治医から産業医への情報提供をはじめとする医療機関等と産業保健との一層効果的な連携等について検討 | 指標設定なし（着実に検討を進めること） | - | - |
| 331101 | 医療機関等において就労支援に携わる者が、産業医等と連携し、患者・事業主間の治療と仕事の両立へ向けた調整を支援できる体制の整備に取り組む | 拠点病院等のがん相談支援センターにおける就労に関する相談件数 | 3045 | 現況報告書 |
| 331102 | 療養・就労両立支援指導料の算定件数※ ※がんについて | - | - | NDB |
| 331103 | 拠点病院等における就労の専門家による相談会の回数 | - | - | 現況報告書 |
| 331104 | 再就職支援を推進する観点から、拠点病院等とハローワークとの連携体制の整備に引き続き取り組む | ハローワークと連携した就職支援をおこなっている拠点病院等の割合 | 3044 | 長期療養者就職支援事業報告 |

就労支援について（職場側）

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|----------------------------------|----|-----------------|
| 331105 | 再就職支援を推進する観点から、拠点病院等とハローワークとの連携体制の整備に引き続き取り組む | 長期療養者就職支援事業を活用した就職者数* *がんについて | - | 長期療養者就職支援事業報告 |
| - | 就労支援のさらなる充実に向けて、様々な就労形態におけるがん患者の就労及び離職の実態を把握し、それを踏まえた就労支援の提供体制について検討 | 指標設定なし（着実に検討を進めること） | - | - |
| - | 中小企業も含めて、企業における支援体制や、時間単位の年次有給休暇や病気休暇、在宅勤務（テレワーク）等の柔軟な勤務制度や休暇制度の導入等の環境整備を更に推進するため、産業保健総合支援センター等の活用や助成金等による支援、普及啓発について検討 | 指標設定なし（着実に検討を進めること） | - | - |
| 331106 | 両立支援コーディネーターの更なる活用に向けて、その活動状況を把握するとともに、地域職域連携の観点からより効果的な配置について検討 | 両立支援コーディネーター研修修了者数 | - | 事業報告（労働者健康安全機構） |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------|--------------------------------|------|--------|
| 331201 | 診断時からの情報提供 | 治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合 | 3041 | 患者体験調査 |
| 331202 | がんと診断された後の仕事の変化 | がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合 | 3042 | 患者体験調査 |
| 331203 | がんと診断された後の仕事の変化 | 退職したがん患者のうち、がん治療の開始までに退職した者の割合 | 3043 | 患者体験調査 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--------------|-----------------------------------|------|--------|
| 331204 | 両立支援の制度利用 | 治療と仕事を両立するための社内制度等を利用した患者の割合 | 3046 | 患者体験調査 |
| 331205 | 両立のための職場環境整備 | 治療と仕事を両立するための勤務上の配慮がなされているがん患者の割合 | 3047 | 患者体験調査 |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|--|------|--------|
| 300008 | 経済・就労関連PROの向上 | 治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したがん患者の割合 | - | 患者体験調査 |
| 300009 | | 金銭的負担が原因で生活に影響があったがん患者の割合 | - | 患者体験調査 |
| 300010 | がん患者・経験者の両立支援・就労支援に関する相談・支援体制へのアクセスの向上 | がんと診断されてから病气や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合 | 3002 | 患者体験調査 |
| 300003 | | 家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合 | 3003 | 患者体験調査 |

| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------------------------|------------------------------|------|--------|
| 000010 | 全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 | 現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合 | 3001 | 患者体験調査 |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）

アピアランスケアについて

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|----------------------------|----|--------------------------------|
| 332101 | 医療従事者を対象とした研修等を引き続き開催するとともに、相談支援及び情報提供の在り方について検討 | アピアランスケア研修（e-learning）修了者数 | - | 国立がん研究センターアピアランス支援センターからのデータ提供 |
| 332102 | 拠点病院等を中心としたアピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築について検討 | 拠点病院等におけるアピアランスに関する相談件数 | - | 現況報告書 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|---------------------|----------------------------------|------|--------|
| 332201 | アピアランスケアに関する相談支援の利用 | 外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができたがん患者の割合 | 3048 | 患者体験調査 |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------|-----------------------------------|------|--------|
| 300011 | 外見の変化に起因する苦痛の軽減 | 身体的・精神的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合 | 3014 | 患者体験調査 |

がん診断後の自殺対策について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|----------------------------------|------|---------------------|
| 333101 | | 緩和ケア研修修了者数 | 3017 | がん等における新たな緩和ケア研修等事業 |
| 333102 | がん患者の診断後の自殺対策について、医療従事者等が正しい知識を身につけられるよう、研修等の開催や、相談支援及び情報提供の在り方について検討 | 自殺リスクに関する研修を実施した拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 |
| 333103 | | 特定疾患治療管理料がん患者指導管理料イ算定数 | - | NDB |
| 333104 | | 特定疾患治療管理料がん患者指導管理料ロ算定数 | - | NDB |
| - | がん診断後の自殺対策を推進するため、がん患者の自殺リスクやその背景等について実態把握を行い、必要な対応について検討 | 実態把握の段階のため、指標設定無し（着実に実態把握を進めること） | - | - |

| # | 中間アウトカム | 指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------------|--|------|--------|
| 333201 | | 心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合 | 3011 | 患者体験調査 |
| 333202 | 気持ちのつらさに対する支援の利用 | 精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合 | 3013 | 患者体験調査 |
| 333203 | | 療養生活の最終段階において、精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合 | 3016 | 遺族調査 |
| 333204 | | 身体的なつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合 | 2075 | 患者体験調査 |
| 333205 | 身体的なつらさに対する支援の利用 | 身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合 | 3012 | 患者体験調査 |
| 333206 | | 療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合 | 3015 | 遺族調査 |

| # | 分野別アウトカム | 指標 | 3期 | データソース |
|--------|---------------|----------|------|------------------|
| 300012 | がん患者の自殺の要因の解消 | がん患者の自殺数 | 3050 | 革新的がん自殺研究推進プログラム |

その他の社会的な問題について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|---|----|--------|
| - | 患者・経験者・家族等の経済的な課題等を明らかにし、関係機関や関係学会等と協力して、利用可能な施策の周知や課題解決に向けた施策について検討 | 検討段階のため指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |
| 334101 | 障害がある等により情報取得や意思疎通に配慮が必要ながん患者の実態やニーズ、課題を明らかにし、がん検診や医療へのアクセス等の在り方について検討 | 情報取得や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 |
| 334102 | 【地方公共団体】がんに対する「偏見」の払拭や正しい理解につながるよう、民間団体や患者団体等と連携し、普及啓発に努める | 拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数（総数） | - | 現況報告書 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-------------|-----------------------------|----|--------|
| 334201 | がん患者の疎外感の解消 | がんと診断されてから周囲に不必要な気を遣われている割合 | - | 患者体験調査 |
| 334202 | がんに対する偏見の払拭 | （家族以外の）周囲の人からがんに対する偏見を感じる割合 | - | 患者体験調査 |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------|---------------|----|--------|
| 300013 | がんによる社会からの孤立の解消 | がんであることを話せる割合 | - | 世論調査 |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：ライフステージに応じた療養環境への支援

小児・AYA世代について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|---|------|------------------------------|
| 341101 | 医療従事者と教育関係者との連携に努めるとともに、療養中に教育を必要とする患者が適切な教育を受けることのできる環境の整備、就学・復学支援等の体制整備を行う。また、ICTを活用した遠隔教育について、課題等を明らかにするため、実態把握を行う | 小児がん拠点病院等における、小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養上の相談への対応・支援のうち、教育に関する相談件数 | - | 現況報告書（小児がん） *1 |
| 341102 | 成人診療科と連携した切れ目ない支援体制が、地域の実情に応じて構築できるよう、患者の健康管理の方法、地域における療養の在り方、再発・二次がん・併存疾患のフォローアップ体制等の医療・支援の在り方について検討 | 小児・AYA世代のがん長期フォローアップに関する研修会参加人数 | 4023 | 小児・AYA世代の長期フォローアップ体制整備事業事業報告 |
| 341103 | 小児・AYA世代のがん経験者の就労における課題の克服に向けて、ハローワークや地域若者サポートステーション等を含む就労支援に関する機関や患者団体と連携した取組を引き続き推進 | 小児がん拠点病院が連携している、小児がんに関する患者団体の数 | - | 現況報告書（小児がん） |
| 341104 | 小児・AYA世代のがん患者の療養環境の課題等について実態把握を行い、診断時からの緩和ケア提供体制や在宅療養環境等の体制整備について、関係省庁と連携して検討 | あり方の検討の段階のため、指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|------------------------|--|------|----------|
| 341201 | 教育支援に関する医療スタッフからの説明の拡充 | 治療開始前に教育の支援等について医療スタッフから話があったと回答した人の割合 | 3052 | 小児患者体験調査 |
| 341202 | 就学支援制度の利用拡大 | がん治療のため転校・休学・退学したと回答した人のうち、患者の治療中に何らかの就学支援制度を利用したと回答した人の割合 | - | 小児患者体験調査 |
| 341203 | がん治療と教育の両立 | 治療中に学校や教育関係者から治療と教育の両立に関する支援を受けた家族の割合 | 3053 | 小児患者体験調査 |
| 341204 | 長期フォローアップの認知度向上 | 長期フォローアップについて知っていると感じた人の割合 | - | 小児患者体験調査 |
| 341205 | 医療者側からの就労支援（説明）の拡充 | 治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合 | - | 患者体験調査 |
| 341206 | つらい症状への速やかな対応改善 | つらい症状には速やかに対応してくれたと思うと回答した人の割合 | - | 小児患者体験調査 |

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-------------------|---|------|----------|
| 300003 | 家族への支援・サービス・場所の充実 | 家族の悩みや負担を相談出来る支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合 | 3054 | 患者体験調査 |
| 300014 | 就学の継続 | がん治療前に就学していた者のうち、「がん治療のために患者が転校・休学・退学したと回答した人」以外の割合 | - | 小児患者体験調査 |

| # | 最終アウトカム | 最終アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|-----------------------------------|------------------------------|------|--------------------|
| 000010 | 全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 | 現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合 | 3001 | 小児患者体験調査 患者体験調査 |

*1. 成人拠点におけるAYA世代のがん患者に係る相談件数も算出することを検討中（令和4年度では現況報告書に対応項目無し）

*2. 小児がん拠点病院と、小児がん連携病院の類型1を分母とする想定

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：ライフステージに応じた療養環境への支援

高齢者について

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|--|----|--------|
| 342101 | 【拠点病院等】地域の医療機関やかかりつけ医、在宅療養支援診療所、訪問看護事業所等の医療・介護を担う機関、関係団体、地方公共団体等と連携し、患者やその家族等の療養生活を支えるための体制を整備するとともに、地域における課題について検討 | 当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 |
| 342102 | | 介護支援等連携指導料の算定数（がん患者に限定） | - | NDB |
| 342103 | | 退院時共同指導料1の算定数（がん患者に限定） | - | NDB |
| - | 高齢のがん患者が抱える課題について実態把握を行い、長期療養の中で生じる有害事象などに対応できるよう、患者の健康管理の方法、地域における療養の在り方、再発・二次がん・併存疾患のフォローアップ体制等について検討 | あり方・施策の検討段階のため、指標無し（着実に検討を進めること） | - | - |
| 342104 | 高齢のがん患者の、人生の最終段階における療養場所等の選択に関する意思決定を支援するための方策について検討 | 意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--------------------------|-----------------------------------|----|-----------------|
| 342201 | 家族の介護負担感の軽減 | 介護をしたことで、全体的に負担感が大きかったと回答した割合 | - | 遺族調査のサブグループ解析*3 |
| 342202 | 死亡場所で患者が受けた医療の構造・プロセスの改善 | 医師・看護師・介護職員など医療者同士の連携はよかったと回答した割合 | - | 遺族調査のサブグループ解析*3 |
| 342203 | 最後の療養場所の希望や医療に関する話し合いの充実 | 患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあったと回答した割合 | - | 遺族調査のサブグループ解析*3 |

*3. サブグループ解析は、遺族調査の結果を、75歳以上に限定して解析することを想定

| # | 分野別アウトカム | 分野別アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|----------------------------------|------------------------|----|---------------|
| 300006 | 死亡前1ヶ月間の患者の療養生活の質向上 | 望んだ場所で過ごせたがん患者の割合 | - | 遺族調査のサブグループ解析 |
| 300007 | 死亡場所で受けた医療に対する全般的満足度（>在宅かつ高齢者）向上 | 在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度 | - | 遺族調査のサブグループ解析 |
| 300015 | 死亡前1ヶ月間の患者の療養生活の質向上 | 人生をまっとうしたと感じていた患者の割合 | - | 遺族調査のサブグループ解析 |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」:

全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース | # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|---|----|------------|--------|--------------------------------------|--|----|------------------------|
| - | 「がん研究10か年戦略」の中間評価報告書や本基本計画を踏まえ、がん研究の更なる充実に向け、戦略の見直しを行う。また、関係省庁が協力し、多様な分野を融合させた先端的な研究を推進することにより、治療法の多様化に向けた取組をより一層推進する | 戦略を検討するものであるため指標設定無し ※次期「がん研究10か年戦略」を令和5年度中に策定 | - | - | 410201 | がん研究論文数、引用数の増加 | CSO(Common Scientific Outline)分類別・部位別論文数、引用数 | - | 論文データベース Dimensions |
| 410101 | 【AMED】基礎的な研究から実用化に向けた研究までを一体的に推進するため、有望な基礎研究の成果の厳選及び医薬品・医療機器の開発と企業導出を速やかに行うための取組を引き続き推進 | 「革新的がん医療実用化研究事業」事後評価 | - | AMED | 410202 | | (AMEDにおけるがんに関する)研究成果を活用した臨床試験・治験への移行数 | - | AMED |
| 410102 | 「全ゲノム解析等実行計画2022」を着実に進め、ゲノム情報等により、患者等に不利益が生じないよう留意しつつ、新たな予防・早期発見等の開発を含めた患者還元や、がんや難病に係る研究・創薬への利活用等を推進 | 日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録されたゲノム変異にもとづくがんを対象とした臨床研究の数 | - | jRCT, AMED | 410203 | 基礎的研究成果として日常診療への導入を目指して推進される医療技術数の増加 | (AMEDにおけるがんに関する)薬事承認件数(新規・適応拡大)(医療機器含む) | - | AMED |
| 410103 | | 日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録されたAMED疾患領域(がん)の研究数 | - | jRCT, AMED | 410204 | | (AMEDにおけるがんに関する)シーズの企業への導出件数 | - | AMED |
| 410104 | 本基本計画における各分野の政策課題の解決に資する研究を推進 | 厚労科研の採択課題における事後評価の平均 | - | 厚生労働省調べ | | | | | |
| 410105 | | 「がん政策研究事業」成果に関する評価 | - | 厚生労働省調べ | | | | | |
| - | 格差の解消に向け、まずは各分野の取組の地域間、医療機関間の差を測定するための指標やその評価方法に係る研究を推進 | 指標設定無し(着実に研究を推進すること) | - | - | | | | | |

人材育成の強化

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース | # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|--|------|---------------------------------|--------|---------------------|--|----|--------------|
| 420101 | 関係学会・団体等と連携しつつ、がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材、がん予防の推進を行う人材、新たな治療法を開発できる人材等の専門的な人材の育成を推進する。また、専門的な人材の育成の在り方を検討するにあたっては、高齢化や人口減少等の背景を踏まえ、人材の効率的な活用等の観点を含め検討する | がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」事業評価 | - | 文部科学省からのデータ提供 | 420201 | 必要な知識を身に着けた専門的人材の増加 | 第4期がんプロで支援されたがん専門医療人材の人数 | - | 事業における取組状況調査 |
| 420102 | | がんゲノム医療コーディネーター研修会参加人数 | 4022 | がんのゲノム医療従事者研修事業(～R4)、現況報告書(ゲノム) | | | | | |
| 420103 | 拠点病院等を中心に、専門的な人材の育成及び配置に積極的に取り組む。また、地域のがん医療や緩和ケア等を担う人材の育成及び配置について、拠点病院等や地域の職能団体を中心となって取り組む | がんリハビリテーション研修プログラムを修了している医療従事者の人数 | 2063 | ライフプランニングセンターからのデータ提供 | | | | | |
| 420104 | | 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数 | 4023 | 小児・AYA世代の長期フォローアップ体制整備事業 | | | | | |
| 420105 | | 緩和ケア研修修了者数 | 4021 | がん等における新たな緩和ケア研修等事業 | | | | | |
| 420106 | | 緩和ケアに特化した講座を設置している大学の数 | 4024 | 文科省からのデータ提供 | | | | | |
| - | | 専門的人材の適正配置 | - | - | | | 今後、検討(人材の配置について、どのように評価を行うことが適切か、検討を行う。) | - | - |

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」:

がん教育及びがんに関する知識の普及啓発

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース | # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|--|------|--------------------|--------|------------------------------------|--|----|-------------------|
| 430101 | 引き続き、学習指導要領に基づき、児童生徒の発達段階に応じたがん教育を推進する。その際、生活習慣が原因とならないがんもあることなど、がんに対する正しい知識が身に付くよう、医療従事者やがん患者等の外部講師の積極的な活用について周知を行うとともに、ICTの活用を推進するなど、各地域の実情に応じたがん教育の取組の充実とその成果の普及を図る | 外部講師を活用してがん教育を実施した学校の割合 | 4031 | がん教育の実施状況調査 | 430201 | | 「がんは誰もがかかる可能性のある病気である。」に対して「正しい」と回答した割合 | - | がん教育総合支援事業事業成果報告書 |
| | 都道府県及び市町村において、教育委員会及び衛生主管部局が連携して会議体を設置し、地域のがん医療を担う医師や患者等の関係団体とも協力しながら、また、学校医やがん医療に携わる医師、がん患者・経験者等の外部講師を活用しながら、がん教育が実施されるよう、必要な支援を行う | | | | 430202 | 国民ががん予防や早期発見の重要性を認識し、がんを正しく理解し向き合う | 「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合 | - | がん教育総合支援事業事業成果報告書 |
| 430102 | 【国及び地方公共団体、拠点病院等を中心とした医療機関】患者やその家族等の関係団体等の協力を得ながら、国民に対する、生活習慣や遺伝子等のがんの発生に関する基本的な情報も含めたがんに関する正しい知識の普及啓発に引き続き取り組む。その際には、啓発資料のデジタル化や対象者に応じた周知方法の工夫等により、より効果的な手法を用いる | がん情報サービスに含まれる項目数 | - | 国立がん研究センターからのデータ提供 | 430203 | | がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合 | - | 世論調査 |
| 430103 | | 拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数（総数） | - | 現況報告書 | | | | | |
| 430104 | 【事業主や医療保険者】がん対策推進企業アクション等の国や地方公共団体の事業を活用することも含め、雇用者や被保険者・被扶養者が、生涯のうちに約2人に1人ががんに罹患すると推計されていることや、がん検診やがんの治療と仕事の両立といったがんに関する正しい知識を得ることができるよう努める | がん対策推進企業アクションの参加企業数 | 4033 | 厚生労働省調べ | | | | | |

がん登録の利活用の推進

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース | # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|-------------------------|------|--------|--------|---------------------|---------------|----|--------------------|
| 440101 | 引き続き、質の高い情報収集に資する精度管理に取り組む | 全国がん登録の精度指標としてのMI比・%DCO | 2111 | 全国がん登録 | 440201 | 全国がん登録/院内がん登録の利用の推進 | 利用件数（総数・年あたり） | - | 厚生労働省調べ/国立がん研究センター |
| | がん登録情報の利活用の推進について、現行制度における課題を整理し、がん登録推進法等の規定の整備を含め、見直しに向けて検討する。利活用の推進にあたっては、保健・医療分野のデジタル化に関する他の取組とも連携し、より有用な分析が可能となる方策を検討 | 指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - | | | | | |

患者・市民参画の推進

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|--|------|----------|
| 450101 | 【国及び都道府県】国民本位のがん対策を推進するため、基本計画及び「都道府県がん対策推進計画」の策定過程について、性別、世代、がん種等を考慮し、多様ながん患者等のがん対策推進協議会及び都道府県協議会等への参画を推進する。また、諸外国の公募制、代表制等の事例も踏まえつつ、患者・市民参画の更なる推進に向けた仕組みを検討 | 都道府県がん対策推進計画の策定過程におけるがん患者を代表する者の参加割合（参考：性別、年代等の多様性） | 4001 | 厚生労働省調べ |
| 450102 | これまでがん研究分野で推進されてきた、がん患者及びがん経験者の参画の取組に係る知見について、患者・市民参画に関する研究成果も踏まえ、各分野への横展開を行う | 厚生労働省科学研究を基に開催された研修会の開催回数 | - | 厚生労働科学研究 |
| - | 患者・市民参画を推進するにあたって、参画する患者・市民への啓発・育成を行う | | | |
| - | 医療従事者や関係学会に対しても、患者・市民参画に係る十分な理解が得られるよう、啓発等に取り組む | 今後、検討（医療従事者側の患者・市民参画に係る啓発に関する活動の成果について、どのように評価を行うか、検討を行う。） | - | - |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|---|---|----|----------------------|
| 450201 | がん対策の重要性を認識し、がん医療について正しい理解を得、医療の向上に向け自らも協力する国民（がん患者含む）の割合増加 | がん対策を進めるためには国民の協力が広く必要であり、積極的に関わりたいと考える人の割合 | - | 世論調査（仮） |
| 450202 | 医療従事者の意識向上 | 関係学会において患者・市民参画を知っていると回答した医療者の割合 | - | 検討中（日本癌治療学会からのデータ提供） |

デジタル化の推進

| # | 個別施策 | アウトプット指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|--|----|--------|
| - | 「がん予防」、「がん医療」、「がんとの共生」の各分野において、PHRの推進、現況報告書書のオンライン化、レセプトやがん登録情報等を活用したがん対策の評価、オンラインを活用した相談支援や効果的な情報提供等、ICTやAIを含むデジタル技術の活用による医療のデータ化とその利活用の推進について検討 | 個別施策を検討する段階のため、指標設定無し（着実に検討を進めること） | - | - |
| 460101 | 患者やその家族等のアクセス向上や、医療・福祉・保健サービスの効率的・効果的な提供の観点から、SNS等を活用したがん検診の受診勧奨や、安心かつ安全なオンライン診療の提供、e-コンセント（電磁的方法によるインフォームド・コンセント）の活用等の治療のオンライン化、地方公共団体や医療機関における会議のオンライン化、相談支援のオンライン化に向けた取組を推進 | 患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 |
| 460102 | | セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 |
| 460103 | | 集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関する、冊子や視聴覚教材等がオンラインでも確認できる拠点病院等の割合 | - | 現況報告書 |

| # | 中間アウトカム | 中間アウトカム指標 | 3期 | データソース |
|--------|--|--|----|--------|
| 460201 | (デジタルにより) がん患者・家族を含む国民が、適切な情報・医療資源・支援にアクセスしやすくなること | 今後、検討（デジタル技術の活用のアウトカムをどのように評価するか、検討を行う。） | - | - |